令和６年度　学校評価における自己評価結果

旭市立鶴巻小学校

1　学校教育目標

豊かな感性で支え合い、主体的に学び・活動する児童の育成

2　学校経営の理念・方針

○　持続可能な質の高い教育活動の実践
○　「ふるさと学習」を実践し、地域と一緒に歩む
○　「知・徳・体」のバランスの取れた教育活動
○　「笑顔」「安全・安心」「着実」を根付かせ実践

鶴巻小教育スローガン 3S

笑顔（Smile）安心安全（Safety）着実に（Steadily）

3　評価結果　　※ 評価　A（十分である）B（おおむね十分）C（不十分である）D（改善を要する）

※評価値　A（Avr. 3．6以上）　B（Avr. 3．2～3．5）　C（Avr. 2．8～3．1）　D（Avr. 2．7以下）

分野・領域	評価項目	評価の指標《肯定的評価%》		評価値	改善の方策
学校経営 教育課程	保：学校は保護者や地域に対して学校経営方針を示している。	学校便りやＨＰで常時発信し、取り組みのねらいや成果、学校教育目標との関係を発信し、概ね理解してもらうことができた。	《98%》	B(3.3)	「学校が楽しい」「笑顔で過ごせた」「学校は活気がある」の項目で、児童、保護者の肯定的意見が90%台であるが、評価値はBであった。学校経営の要と位置付けている項目であるため、A評価となるように「分かる授業」「自己肯定感の育成」「問題行動の早期発見・早期解決」につとめていく。 「ふるさと学習」については、いつ、どの教科で行うか年度始めに確認したことで高い評価を得た。引き続き取り組んでいきたい。
	保：学校は特色ある行事や体験活動を行っている。	ねらいに沿って行事や教育活動を実践した結果、思考力の向上や深い理解、自己理科や自己肯定感の育成につながった。	《95%》	B(3.3)	
	保：学校は明るく活気があり、子供が楽しく学校に通っている。	努力したことに対する満足感やより良い人間関係の中で互いに高め合うことを目指して児童の指導にあたり概ね理解を得ることができた。	《94%》	B(3.5)	
	児：１年間、笑顔で過ごすことができた。	概ね達成することができた。	《92%》	A(3.6)	
	職：学校の経営方針・理念に沿って指導を実践する。	教職員全員が経営方針・理念を理解し、教育実践を進めている。	《100%》	A(3.7)	
	職：授業や各種教育活動に「ふるさと学習」を取り入れている。	「ふるさと教育」を教育計画に位置づけ、どこで、どのような指導を行うかを明確にしたことにより成果があった。	《100%》	A(3.7)	
学習指導	保：ＩＣＴ教育等、分かりやすい授業実践をしている。	ＩＣＴ機器の効果的な活用が定着してきた。「鶴巻小授業展開モデル」に基づく分かりやすい授業への支持も概ね得ることができた。	《93%》	B(3.3)	児童の「授業に集中した」、教職員の「目当てを明確にして授業を行った」「授業改善に取り組む」の評価値がBであった。今後、授業準備や相談（若手からベテラン・中堅へ）の時間の確保、効果的なICT活用のためのより一層の研修の充実を図っていく。 また、児童の家庭学習（宿題・自由学習）の評価が低調である。自学ノートを生かした家庭学習の指導に引き続き取り組んでいく。
	保：子供は発達段階に応じた家庭学習をしている。	家庭学習におけるタブレット端末の使用、自学ノートの活用（学習の仕方を含む）により、概ね理解を得ることができている。	《88%》	B(3.2)	
	児：授業に集中して取り組む。	１年間を通して、授業に集中したことに対して高い自己評価を得ることができた。	《96%》	A(3.6)	
	児：宿題や自由学習に進んで取り組む。	宿題や自由学習への取り組む意識の低下が見られた。今後も自学ノートなどの指導とともに家庭学習の重要性を指導していく必要がある。	《83%》	B(3.3)	
	職：単元や時間ごとの目標（めあて）を明確にして授業を行っている。	教材研究を行っている職員は多いが、評価値が低い。さらに研修を充実させ、教材研究の質を高めていく。	《96%》	B(3.4)	
	職：主体的・対話的で深い学びへ向けての授業改善に取り組む。	新しい学びについて、教職員で研修する機会を多く設け、授業力の向上を図っていく。	《100%》	B(3.4)	
生徒指導	保：学校は心の教育の充実、いじめ防止に向けた取組をしている。	アンケートや教育相談を計画的に実施し、いじめの認知等に生かしている。問題が起きたときはケース会議を開きチームで対応した。	《92%》	B(3.3)	児童の「いじめをしない」の評価が高いことは、教職員の「個に対応した丁寧な指導・相談」など、担任等の不断の指導が身に付いているように考える。 一方で、保護者の「心の教育・いじめ防止」の評価値がBであった。学校の取組を強化するとともに、家庭との連携を更に深めていく必要がある。
	保：子供は時と場に応じた挨拶ができる。	肯定的評価が５ポイントも下がってしまっている。担任等の指導や教職員自らの実践により、子供たちへの意識付けを行っていく。	《91%》	B(3.3)	
	児：友達 をいじめたり、見 ぬふりをしたりしない。	学校生活アンケートや教育相談など、適切な指導を行った結果、望むべき児童の行動につながった。	《96%》	A(3.7)	
	児：明 るい挨拶（学校 や近所）をする。	挨拶の大切さや必要性を理解させるとともに、職員が範を示し、挨拶への意識を高めることによって向上を目指していく。	《91%》	B(3.5)	
	職：生徒指導の機能を生かした授業に努めている。	「自己存在感の育成」「共感的な人間関係の育成」「自己決定の場づくり」の３機能を生かした授業づくりのために研修等を行っている。	《96%》	B(3.5)	
	職：児童一人一人の児童に寄り添い、丁寧な指導や相談を行っている。	問題の早期発見・迅速対応に徹し、丁寧な生徒指導を全校体制で行っている。	《100%》	A(3.6)	
特別支援教育	保：学校は児童個々の多様性を認め、個別の支援を実践している。	特別支援教育コーディネーターを中心に、全校体制で支援を実践している。	《89%》	B(3.2)	特別支援教育は全ての児童が対象である。児童の特性について家庭と共通理解を図り、児童の多様性や個性を認め、常に大切にしていく指導を心掛けていく。
	児：困っている友達に優しく接することができる。	異学年交流の充実により、高学年が低学年の面倒を自然に見る温かい雰囲気があるので高い評価であった。	《96%》	A(3.7)	
	職：特別に配慮を要する児童について、共通理解を図り指導を行う。	教育支援委員会を随時開催し、個に応じた対応について共通理解を図り、適切と思われる指導を行った。	《100%》	B(3.5)	
各種教育	保：学校は勤労観・職業観を育てるキャリア教育を実践している。	校外学習や外部講師を招き、キャリア教育の実践を年間を通して実践した。	《97%》	B(3.3)	各種教育（キャリア教育・読書教育・ＩＣＴ教育・国際教育等）は、教科に重ねて行うため、いつ、どのようにするのかを明確にし、ねらいをもって行なっていく。 職員については各教科のねらいを達成するICTの活用の仕方に習熟しつつある。
	児：読書に進んで取り組む。	親子読書活動など取り入れたが、児童・保護者の読書活動への意識は、大きな差があるので、学校として更なる工夫が必要である。	《82%》	B(3.2)	
	職：キャリア教育の推進に努めている。（勤労観、職業観の形成）	キャリア教育の全体計画をもとに、どの教科・領域のどの単元で行うのかを明確にして指導実践を行った。	《95%》	B(3.1)	
	職：視聴覚教材や各種教育機器を活用したICT教育を実践している。	タブレット端末の使用頻度が向上し、ＩＣＴの効果的使い方についても浸透しつつある。	《100%》	A(3.7)	
保健教育 安全管理	保：学校は感染症対策等、健康・安全指導の充実に努めている。	養護教諭を中心に熱中症・感染症対策を全校体制で徹底し、年間を通じて安全・安心に学校運営を実践することができた。	《97%》	B(3.5)	養護教諭を中心に熱中症や感染症対策を行っている。引き続き取り組みを行っていく。教職員は、安全点検等の危機管理の面で高い評価を得た。来年度もその意識を継続し、「安全・安心」の意識を高めていく。
	児：自分 や友達 、全体 のことを考 え安全 に行動 した。	安全・安心な学校生活に向けての意識しながら学校生活を送らせることができた。	《95%》	A(3.6)	
	職：危険等発生時対応マニュアルを理解し活用している。	地震・火災・不審者侵入などを想定した避難訓練を通し、危機管理意識の向上が図れた。	《100%》	B(3.3)	
	職：安全点検を徹底し、安全に関する日常的な指導をしている。	複数かつ交代で安全点検を行うことで、点検の精度が増し、児童に安全な環境を提供できた。	《100%》	A(3.7)	
保護者連携 地域連携	保：学校と保護者は、信頼関係を築けている。	学校経営の要である学校・家庭間の信頼関係の構築については、今後も弛まぬ努力をし続ける。	《91%》	B(3.2)	学校運営協議会及び地域学校協働活動が本格的に始まり、地域や保護者の支援に感謝が絶えない。今後とも、地域とともに子供たちを育てていく学校でありたい。そのために、地域や保護者とより一層の連携を図っていけるように努力していく。
	保：学校は、保護者からの連絡や相談に丁寧・誠実に対応している。	各担任や管理職が保護者からの相談等に誠実に対応していく。	《94%》	B(3.5)	
	保：地域は、学校の教育活動に協力している。	地域学校協働活動が始まり、コーディネーターの協力を得て、地域と共に子供を育てていくという体制ができている。	《90%》	B(3.2)	
	職：早期及び即時対応を心掛け、保護者との連携を図っている。	保護者からの連絡については担任から管理職への報告・連絡・相談を徹底し、保護者との連携が十分に取れるよう引き続き努力していく。	《100%》	A(3.6)	
	職：学年便りなどを通し、児童の様子を積極的に家庭に伝えている。	HPや学校便り、学年便り（テトル配信）を通じて、保護者に情報発信することを今後も心掛けていく。	《100%》	B(3.4)	

4　評価結果の分析

○　学校教育目標、学校教育の理念及び方針に向けて、教職員が努力する姿勢が見えた。評価値が更に向上するよう一人一人の取り組み方を改善していきたい。
○　保護者からは、学校運営に対し様々なご意見をいただいた。今後も保護者の声を傾聴し、丁寧な説明と素早い対応を心掛けていく。
○　地域との連携については、コーディネーターの協力を得て順調に行えた。今後とも、地域とともに子供たちを育てていく。
○　HPによる情報発信についてPRをし、学校の取り組みに対する理解を得たい。